

第1回 尾張北部環境組合公害防止準備委員会 議事録（要旨）

日時 令和5年5月30日（火）

午前10時～11時45分

場所 江南市役所3階 第2委員会室

● 出席者等

出席者：16名 欠席者：2名

No	委員	役職等	欠席
1	眞野 敏 委員	中般若区 区長	
2	野呂 隆昌 委員	中般若区 副区長	欠席
3	伊神 武司 委員	草井区 区長	
4	伊神 莊二 委員	草井区 副区長	
5	白石 政孝 委員	般若区 区長	副委員長
6	今井 真澄 委員	般若区 副区長	欠席
7	大竹 宏和 委員	小淵区 区長	
8	箱山 芳一 委員	小淵区 副区長	
9	小室 明正 委員	南山名区 区長	
10	小川 和男 委員	南山名区 副区長	
11	三品 千晃 委員	山那区 区長	
12	倉地 弘美 委員	山那区 副区長	
13	林 進 委員	岐阜大学名誉教授	委員長
14	中村 達司 委員	犬山市経済環境部長	
15	平野 勝庸 委員	江南市経済環境部長	
16	水野 眞澄 委員	大口町まちづくり部長	
17	長谷川 明夫 委員 (代)尾崎 博之	扶桑町生活安全部長 扶桑町環境課長	
18	相京 政樹 委員	江南市環境課長	

傍聴者：0名

1 挨拶

皆さん、こんにちは。尾張北部環境組合の管理者を務めております江南市長の澤田和延でございます。

委員の皆さま方におかれましては、大変お忙しい中、ご出席を賜り、誠にありがとうございます。

また、委員への就任に際しましては、こころよく、お引き受けいただき、ありがとうございました。重ねてお礼を申し上げます。

さて、尾張北部環境組合は、現在稼働しております「犬山市・都市美化センター」、「江南丹羽環境管理組合・環境美化センター」に代わる新たな施設を整備し、ごみ処理を共同で行っていくために、平成29年に、犬山市、江南市、大口町、扶桑町で設立された一部事務組合であります。

2市2町の住民の皆さまのごみ処理を滞りなく進め、安心で、快適かつ、衛生的な生活を確保するため、環境にやさしく、効率性に優れた施設を目指して、事業を推進しているところでございます。

その新ごみ処理施設の供用につきましては、諸事情により、当初予定より遅れましたが、令和9年度には試運転に入り、令和10年4月に供用を開始してまいります。

また、新施設の建設・運営を担っていただく事業者として去る2月に三菱重工環境・化学エンジニアリング株式会社と契約いたしました。

本日は、皆さま方には公害防止準備委員会の役割及び新ごみ処理施設の概要の説明のためにご出席いただきましたが、今後は工事の進捗状況等、この委員会にご説明する機会も設けられればと考えております。

令和2年4月には地元6区の皆様と公害防止協定を締結していただきましたが、この協定書を遵守することはもとより、継続的に周辺環境に十分に配慮した施設の運営に努めてまいりますので、今後ともご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

簡単ではありますが、ご挨拶とさせていただきます。

よろしくお願ひ申し上げます。

2 委嘱状の交付

3 委員長及び副委員長の選任（委員による互選）

（委員長）

昨年度の委員長であり新ごみ処理施設の整備計画などに関わってこられた林委員が適任であるとの意見あり。

（一同異議なし）

（副委員長）

般若区区長の推薦あり。

（一同異議なし）

4 議事

（1）尾張北部環境組合公害防止準備委員会の役割について

事務局より資料3、資料4を用いて説明。

（委員長）

分からない所がありましたら、遠慮なくご質問ください。

（発言なし）

（委員長）

その他、お気づきの点がありましたら、事務局までお申し付けください。

（2）新ごみ処理施設の概要について

事務局及び事業者からパワーポイントを用いて説明。

（委員）

煙突の高さを知りたいのですが、メーカー設計基準通りの高さになっていますか、それとも岐阜基地の飛行機の飛行ルートになっている関係で、メーカー設計基準よりも

低くなっているのか。

それと、ごみピットの臭いの対策で、夏場と冬場で温度が違うから臭いも変わってくると思うが、夏場のきつい臭いへの対策を知りたい。

あとは、搬入ルートについて、県道浅井犬山線がメインルートになっていると思うが、抜け道を業者の車が通らないように規制をして欲しい。

(事業者)

1点目の煙突の高さについては、組合からの要求水準として、自衛隊の高さ制限の標高84.6mという制限がありまして、それに合わせて設定しています。

2点目のごみピットからの臭い対策については、一般的には夏場の方が水っぽいごみが多くて臭います。冬場は乾燥していて季節の違いや、ごみピットのごみの貯留状況、たくさん溜まっていると臭うし、少なければ臭いも減ります。そういった時期による臭いの違いはございます。施設のごみピットの臭気対策としまして、ごみの燃焼に必要な空気を送る押込送風機があるのですが、この空気をごみピットから吸い込んで送ることで、ごみピットの空気が外に漏れないようにします。炉内は850℃以上の高温なので炉に送られた臭気の成分は分解されます。また、夏場だったりごみの貯留量や焼却炉が2炉中いくつ稼働しているかで吸われる空気の量も変わってきますので、燃焼用の空気が少ない時は、活性炭を使った脱臭装置を使ったり、プラットホームは自動開閉扉にしたり、消臭剤を噴霧したり、エアカーテンと言って空気で作る壁を作り多重の臭気対策を実施します。

(委員)

煙突の高さを組合の要求でメーカーの高さから変えて、臭いの問題は解決できるのですか。こういった事で過去に他施設で問題になっているから、簡単に煙突の高さは変えてはいけない、地元の人が困った事にならないか。

(事業者)

施設の煙突の約52mという高さは、臭気や拡散においてはもう少し低い数値でも許容できまして、余裕を持った高さだと認識でいます。ご懸念については、環境影響評価を基に十分に周辺に住まわれている方々に不快な思いをさせないような設計を指定

されています。

(委員)

低い煙突で臭いが気にならない対策をしていますが、実際に低い煙突を日本国内で設置した場所はあるのか。

(事業者)

今回は接地面から約5.2mの高さになるのですが、そういった事例は他にもあります。一般的には航空法の制限で5.9mという所が多いのですが、今回の約5.2mも十分に実績のある高さで、そこから排出される濃度がどのように希釈・拡散されて地上に降りていくかは環境影響評価で評価されています。

(委員)

臭い玉と言って臭いが固まって流れる事があって、風が吹いて上手に臭いが風に乗って逃げれば良いけれど、ある場所に臭い玉ができてしまう、となるとそこだけ非常に臭い場所になってしまう。家のごみ処理場から1kmも離れていないので非常に心配です。

(委員長)

補足させていただきますと、小牧市にごみ処理施設ができた時に犬山市に環境影響評価にコメントして欲しいと頼まれた事があって、その時に煙突の高さと排ガスの拡散状況というのは、どのように想定しているのかという事と、ヒートアイランド現象でこれは温度だけの問題ではなく公害防止上非常に重要な条件であって、先ほど仰られたように、臭いが離れたところに集中して、近い所には集中しない事と、その地域が低温区か高温区か、木曾川が近いので全体では低温区だと思いますが、低温区と高温区の気流、高さ、それと季節風で部分的にヒートアイランド現象が起こります。それで答えを出して欲しいと、それは不可能だと、できないのであれば施設稼働後にモニタリングして、何か問題が発生したらその都度それを解決するという回答でした。

できたら仮想シミュレーションをやってみて、どう拡散するのか、あるいはある条件下においてどのように塊ができるのか、どの辺りに可能性があるのか答えられるの

ではないでしょうか。

臭いを薄めるのは煙突に触媒をつければできるが0にはならない、先ほどのご指摘ではどのように拡散して集中するのか検討していただければ良いと思いますがいかがでしょうか。

もう1点、搬入路について事務局からお願いします。

(事務局)

搬入ルートですが、主要ルートは県道浅井犬山線ですが、そこに至るまでの各市町のルートについては、これまでも例えば小湊の交差点から南進する道は通ってほしくない等の様々なご意見をいただいておりますが、どうしても通らなければいけない道はあると思いますので、可能な限りになりますのご意見をいただければ二市二町を通して収集運搬業者に指導をさせていただきたいと思っております。

(委員長)

通行量で線の太さを変えた図があるとわかりやすいですね。

運転者心理はどうしても抜け道を探すので、それを防ぐために運搬車の通行計画を示す事も考えて、特に地元の生活道路を心配されると思うので、それに答えていく必要があると思います。搬入車の台数、時間帯や時期での変動をわかりやすい形で示すのもひとつの方法かと思っております。現実動き出した時にどこを修正すれば良いのかとなっていくかと思っております。

(委員)

臭いの調査を再度されるのであれば小湊地区内では50mも離れていない所で5mくらいの高低差がある、そういった高低差も考慮して欲しい。

(委員長)

特に秋、冬にそういった現象が起こりやすい、霜穴という物が発生するのですが、きめ細かな温度マップによって状況がわかりまして、そういう可能性をどのように排除するかというと、東京では都市計画で風の通り道を作って滞留を防いでいます。町を作り変えるわけにはいかないなので、発生源でどう対応すればいいのか考えていただき

たいと思います。煙突から吹き飛ばすのも一つの手だと思います。

今日は問題を出していただいて、ここまではできるとか、議論しながら答えを導かれると良いと思います。

(委員)

騒音・振動について、表示計で判断してくれという事ですが、第三者が抜き打ちで検査する事は可能かどうか、振動については、相当遠くまで響くのではないかと思うので、工事を始めてからひとつご検討をお願いします。

それと南西の出入口についてと、生物の多様性について知りたいです。

(事業者)

騒音・振動についてはご指摘の通り、感じ方、考え方がいろいろあると思いますし、抜き打ちでの調査は、見学台を置く等して開かれた現場という形で申し出があれば、安全を確保した中で工事状況を確認していただいたり、実際に音が発生している状況に立ち会ってもらいながらご意見をいただく場を設けますので、対応できる範囲で対応していく形で、住民の声に耳を傾けて対応します。現場を囲って遮蔽するだけでなく意見を聞くという取組をしていきたいと思いますので、いろいろな形で意見等受ける場があると思いますので忌憚ないご意見、ご要望をいただいて何かあれば速やかに対応させていただきます。あとはホームページみたいな所でやりとりするとか、いろいろな形で意見のいただき方を検討していきたいと思います。

(事業者)

南西の出入口については、側道を降りた先はお借りできないか住民の方と調整しています。その結果でこちらを利用する可能性があります、基本的には工事車両は東側エリアから入り、南西は工事の取っ掛かりで小屋を建てたり、準備に利用したいと考えています。

(委員)

南西からはダンプの出入りはやめていただきたいと思います。

(事業者)

ダンプ等の工事車両は東側エリアからの出入りで考えております。

(委員)

あとは生物の多様化について伺いたいです。生物の移動空間（コリドー）・生息空間の創出ということで、生物の調査もされると伺っていますが、森というのは私達が子供のころクワガタやカブトムシを取りに行った所で、最近は何も行ってないみたいですが、代わりにハクビシンやイタチやキツネ、タヌキとか今まで見てなかったものが見えるようになった、生物の移動空間は木曾川河川敷の樹林地からの移動を考えているのか、敷地内で考えているのか、子供のころは小道から入っていたけどそれができないから、害の有るものが入ってきている、マムシが出たって話も聞くし、この辺の考え方を具体的にあれば教えて欲しい。

(事業者)

今回の建設用地は自然が残されているという事で、周囲への緩衝緑地を設けて見た目だけではなく、用地内でいろいろな形で緑地を再生できるエリアを設けて、その中で樹木を復元したり移植したりする中で、極力この清掃工場が孤立した建物というより、緑の空間を設ける事で再生、保持できるコンセプトとしています。実際にどのような形で生育しているものが復元できるかは今後の課題になるのですが、基本的な考えの中では緑を伐採して建物を建てて終わりというより、空いた空地を活かすという事で、我々も専門外の所もあるので緑化をしている専門家の知見を織り交ぜながら樹木の選定をして、再現をしていく形で、いろいろな形でご意見をいただいてやっていきます。基本的には自然に溶け込むようなプラントを目指していきたいと思いますので、ご意見をいただきながら実現に向けて尽力していきたいと思います。

(委員)

もう、伐採しますよね。決まっていたら細かい説明を聞きたかったのですが。

(事業者)

グループ1からグループ4の樹木の組み合わせでやっています。周辺から全体の流れから緑の空間をつくります。それを含めて切った木の再利用も含めて復元していくという形の所までは、提案計画の中でやっている形になります。

(委員)

前回の説明で伐採の前に生態を調べると言っていたと思うが何を調べるのですか。

(事業者)

環境影響評価の中で生態系は調べられていると思ひまして、その結果については提示されています。実際に着工する前に事業者として確認はしますが、どんな生態系があるのかは環境影響評価で細かいデータはいただいています。その資料を基に現況確認をして工事を進めていきます。

(委員長)

グループ分けは言葉で示さずに、常緑樹か落葉樹か、高木か中木か低木か、密か疎か、その要素の組み合わせがあるので、上から見た時どうだ、鳥が上や横から飛んで来たらどうだ、こういう風に改善する、そういったグループごとの目的や理由を示されればもっと理解しやすいかと思ひます。

(事業者)

今回はプレゼン資料という事で簡易的になっているのですが、ビオトープ関係をプランする所と打合せをして、実際にはもっと細かい視点でやられていて資料があるのですが、今日は用意をしていなかったのですが、別で意見交換とか話を聞きたいという事がございましたら、資料も含めてご用意させていただいて説明の機会を設けさせていただきたいと思ひます。

(委員長)

50年くらい経つと自然界もバランスを取ってくるが、それを新しく作ろうかという事であればなおさら理由を示しながら設計した方が良くと思ひます。

(委員)

もうすぐ、新愛岐大橋が建設されますが、その時期と重なって交通量が増えると思うが、その辺の調査はされていますか。

もう一つが、このような燃焼方式の施設が全国でいろいろあると思いますが、近くの市で苦情が出ていないか聞きたいのですが。

(事務局)

まず一点目の新愛岐大橋の工事ですが、こちらは愛知県の一宮建設事務所の担当になりまして、こちらとは連絡を取りながら、いつにどういった事があるかという所はお互いに把握して進めていこうという事で進めていますので、対応できることと対応できないこともあると思いますが、連絡を密に取りながら進めていきたいと考えております。

(事業者)

もう一点の処理方式の他での事例については、今回はストーカ方式で全国で一番多く採用されている方式でして、ごみ焼却場の7割くらいはこの方式です。近隣を探っていけば大体がこの方式だと思います。事例というとは沢山ありすぎて困ってしまう所です。

(委員)

三菱重工さんが施工されているのですか。

(事業者)

近くですと名古屋市の木曾川工場、海部地区の施設ですとか。

(委員)

実績があつて特に苦情とかは。

(事業者)

問題なく稼働しています。

(委員長)

去年見に行った桑名も安定したシステムだと言っていました。

(委員)

カラスやハトの攻撃が施設に対してあると思うが、その辺りも考慮された方が良いと思う。

(委員長)

他で問題になっていないので、できるかなと思います。

(委員)

前回の工程の説明では6月から着手予定だったと思うのですが、3カ月遅れた原因は何だったのでしょうかという質問と、3カ月の遅れを取り戻すのに土建、プラント工事が厳しいのではないかと思うのですが、工事が伸びるという事は考えられるのでしょうか。

(事業者)

3カ月ずれた事については、ホンドキツネの営巣期が8月くらいまでという事を環境アセスから受けまして、それを避けて欲しいという事で9月からとしました。

3カ月ずれた事で工事が遅れるという事は今の所無いと考えています。

(委員)

畑の中に耕作放棄地があるのですが、そこにキツネが入り込んで来ているのですが人家の方に攻撃に入りつつあるので、非常に困っているのですが、工事をやって終わった後にはキツネを元に戻す計画でしょうか。

(事務局)

建設地の中にホンドキツネがおりまして環境影響評価の事後調査というものの中で愛知県からご指導いただいている部分もあるのですが、ホンドキツネは生態系の上位種という事で大切に扱わないといけないという認識です。建設地から少し離れた江南

の公園の近くに代替地という事で個人地にはなりますがお願いをして草刈り等をさせていただいて、そこに移動していくような措置を取っている所でございます。今の所、そこに移動した傾向は見られませんが、実際に9月に工事に入ると、どこかに行くという事になり、最終的には建設地の中に緑地を残す所もあるので、そこに戻ってきてくれるような事も考えておりますが、ホンドキツネというものをどう捉えるかは人によって違うと思いますので、保全しようとする人もいますし、迷惑だと感じる方もいると思いますが、愛知県の指導では保全しろという事になっていきますので、そのように進めています。

(委員長)

樹木を移植するという計画だと言っていましたが、どうしても移植しないといけない木はあるのですか、何故かという移植はお金がかかって、成功率が低い。それは木は微生物と一緒に生きていて、他の木と共生しているから根を切って土を変えると根付くわけがないから、コスト的にも植えた方が良いと考える。

移植すべき木は無いと思えないから、むしろ森の形を大切にしたいと思うのでご検討ください。

(事業者)

地元造園の知見も含めてベストな案で進めさせていただきたいと思います。

引き続きご意見をいただけるとありがたいと思います。

委員長閉会あいさつ

これをもって、本日の公害防止準備委員会を閉会する。

(閉会)